

海 (かいし) 市 No.1

●詩

02 前田 勉 今在ることに気づいたように

●エッセイ

06 片津 森 筑森山にて

09 佐藤 ただし 鳥日記

16 横山 仁 雑記

今在ることに気づいたように

前田 勉

体を包み込む陽のあたたかさが
うれしかった

河口から三つの橋を越え

中洲のあたり

サワサワと揺れ動く柳の葉の隙間

やわらかく

春の風を含みながら

川面を

染めあげている

さして重要なことではなかった
今朝目覚めてから

確認しようとしていたものが

一体何であつたのか

それを

思い出せないだけにすぎない

ただそれだけであつた

時に

多くのものを捨てるため

その回数分を振り返つたことも

確認しようとしたこともあつたが

そこへ戻つたことはなかつたのに

位置付けや色合い

影とか重さが

不条理にめくれ上がった時間の襞に

醜くこびりついてしまつていたのか

振り返るな

人のことは考えず

それぞれがそれぞれに

逃げろ！

だから捨てて

何もかも捨てて

気付いたばかりの自分以外を捨てて

逃げたはずだった

夜

馬鹿げた時代錯誤の失望

断片の継ぎはぎに隠れた

緋色の文字

を

背負ったミューズ

部屋の北側の壁に

何かがブンヨリと張り付いていた

か

もしくは

今この季節にあるはずのない熟れすぎた柘榴が足元に
音をたてて落ちて跳んで散って窓の大きさに拡がる曇
天に吸い込まれて融けて風になって何も無くなった
か

気のせい
か

川面を染め上げた時間
やわらかくうつろい

季節の風

素知らぬ風情で

あらがっている

今在ることに気づいたように

筑森山つくもりやまにて

片津 森

「アルパこまくさ」発早朝六時三十一分のバスとあつて、終点八合目で下車したのはわずか六人だった。途中の車窓からもそうだった。辺りはガスの世界で展望はまったく望めない。休憩所で雨具の支度をしていくうちに、他の登山者はもう駒ヶ岳方面へ向かつて出発していた。

この山で登山届を出したことはなかったが、昨年秋の御嶽山の噴火以来、登山届の提出が励行されているようだ。休憩所に設けられたポストに、今日のコース、笹森山の肩から乳頭への縦走、孫六口に下山と記入して投函した。

*

休憩所の管理人か何かと思われるおじさんがぶつ

ぶつ言っている。今年は寒い、今の時期になつても寒い、とか、雪解けは早かつたどもな、とか、どうも私に話しかけているようだ。ここの休憩所は避難小屋も兼ねているが、尋ねると小屋に泊まる人は滅多になく、泊まる人のほとんどは駐車場で車中泊をしているそうだ。阿弥陀池小屋はと聞くと、泊まるのは皆カメラマンだろうという。しかし、このカメラマンの中には高山植物を保護する立ち入り禁止のロープなど平気で越えていく人もいる、とおじさんは憤った口調になる。高山植物を守ろうといった広報とか、呼びかけをもつと強烈にやらねばだめだ、とも言った。迫力のある主張に、同感です、と返した。

身支度もできたので、おじさんに「せば」と挨拶すると、私の出てゆく方向を見て、「縦走するんだが？ 気つけてな。さつき一番のバスで来た女性の四人連れも向かつたよ」と教えてくれた。

*

八合目を発つたのは七時十五分だった。旧乳頭スキー場からのコースとの分岐を経て湯森山に到着。今日気づいたのだが、ここの山頂はコース出合いの地点

よりほんの鼻先のところにあつて、一四七一メートルと書かれた標柱と三角点があつた。ここから少し下つたところに残雪があつたが、その手前でウサギギクを見つけた。五、六年前、阿弥陀池から横岳に向かうところで見たことがあつただけで、もう一度見たいと思つていた。これが十本ほど黄色い花を咲かせている。あらためて観察すると、全体の丈は二十センチくらい。茎から出ている葉は対生で大体が四枚。柔らかさうだ名の由来は、葉の形がウサギの耳に似ているといふところからきている。葉や茎についた短い柔毛は朝露をまとつてゐる。風雨を受けたためか花びらのつき方が一様ではない。コマクサとかニッコウキスゲ、タカネスマシレなどにはない癒し系の雰囲気があつて、いい花だと思ふ。

*

熊見平はガスで幻想的だ。少し先に進んでから振り返つてみると、木道とお花畑があつて、向こうに残雪がある。ガスがなければ湯森山が背景に寝ているのだろう。絵になりそうだ。そこから十分ほど行くと黒く大きな影が見える。宿岩だ。ハイマツが広がるばか

りの、ほかにあるとしたらミネザクラがたまに見つかるくらいの山路に、突如こんな大岩が現れることがある。たとえば栗駒の天馬尾根にある岩もそんな感じで、噴火口から遠かつたり、または、他の噴石群から離れたところにあつて、おまえたちは、いつ、どこからここに降つてきたの、と問いかけてみたいくらいの孤独な岩だ。

そして、シャクナゲ。この花は多くの山で見ることができるとが、今朝の路傍に咲く純白だつたり白桃色だつたりするこの花に、初めて愛らしさを見つけたような気がした。秋田駒横岳付近では人の目線に近い高さに咲いているが、今日のコースでは、膝の高さのハイマツを風よけにするように咲いている。五つ六つくらいに別れたちいさな花が寄り集まつている。この花は今日、行く先々で路を飾つていた。ハイマツの海に向こうにぼつんと白い顔を覗かせている、あれも同じ花だ。

*

ガスは西から吹いてくる。もう着いてもいいところと何度か思つているうちにようやく笹森山に着いた。九

時四十五分だった。三等三角点があった。緩やかに路は下りに入るが、前方がやや明るくなってきた。ガスが晴れそうな気配だ。晴れてくれと願う。西から寄せて来るガスと、東から吹きあがってくるガスが前方で出会い、進んだり退いたり、舞うように立ち上がったかと思うとすっと消えたり、後ろから援軍のようにまた上がって来たりしている。

自分が見ているのは「氣象」なのかと、おおげさだがそんな感じだ。尾根が緩やかに広がったこの台地上で、東と西から上がってきたガスがせめぎ合うといふより融けあっているようだ。

じつとその様子を見守るうちに、やがて一山も二山も向こうの遠くのガスも薄くなつてくると、その奥に巨大な山塊の脚とでもいうのか山裾が現れた。岩手山だ。それは徐々に姿を現し、ついにガスが追い払われて、山頂までもが一気に姿を現した。今まで下ばかり見ていた視線を、今度は上げなければならぬ。やはり高い、高いよ、岩手山は。山腹にあるのは網張の施設だろう。目を右に移してやや近くに戻せば、千沼ヶ原の湿原が広がり、池塘の間を縫うような道が白く細

く奥の方へ消えている。

*

こうした情景を見ることのできた幸運を喜び、スケッチブックを開いた。私のいるところから七、八分も下った先には白い道標のある分岐が見える。右は湿原からやってくる路であり、左は乳頭山から下りてきた路だ。私が歩いてきた路と合わせて三方からの路が交わる。この縦走を思い立ったのは、三本のコースが出合う分岐点と道標が風景の中に立っている様子を見ケッチしてみたいと思ったからだ。地図では分岐があることと、そこが笹森山からは見えそうだと推測はできて、実際に見えるかどうか、低木や傾斜の角度が邪魔していないか、行ってみなければ分からなかったが、当初の目論見が的中した形となった。

足元にあつた石に腰を下ろして、時が経ち、光をはね返す白い紙に色を広げるうちに、何人かの登山者が私に声をかけていく。そんなときは、下手な絵はまさに白日のもとに晒されて隠しようがないけれど、さりげなく絵が彼らの死角に置かれるように前に立って、私はさつき見た「氣象」のことを話して聞かせている。

鳥日記

佐藤 ただし

七月二二日

昼ごろになり梅雨の季節とは思えないほど、日差しが強まり気温も上がり始めた。今日はMさんの表彰式と祝賀会があるので、会社を午後から休み、自転車で雄物川の堤防を走って家に帰った。

堤防は草が刈られ、河川敷のゴルフ練習場でゴルフボールを打っている人達を見かける。雄物川にかかる高圧線にカラスが五羽止まっていた。ちょうど堤防の真上に二羽が寄り添い、そこから三メートルくらい離れたところに三羽止まっている。

二羽のほうはつがい、三羽のほうは今年生まれた幼鳥を真ん中にした家族だろう。

真ん中の少し体の小さいカラスが甘えた声を出して

右側のカラスに一步近づきエサをおねだりしている。

しばらく行くと、堤防の斜面にもカラスが一羽いて、地面を突つ突いてエサを探している。暑さのせいか口を少しあけているが、口の中が赤く、こちらも今年生まれた幼鳥だろう。

五月の連休頃に生まれ、すでに一人前のカラスとしてエサを探しているのだが、移動する際に右足だけでピョンピョン跳ねているところを見ると、左足を怪我しているようだ。

生まれて二か月足らずというのに、このカラスが背負ったハンディーを思うと少し気の毒に思ったが、当のカラスはあまり意に介していないようにも見受けられた。野生動物の強さだろうか。

七月二三日

今朝は一転雨になり、ひんやりとした空気が二階の部屋に入ってくる。昨夜は寝苦しい程の暑さだった。

雨の日の朝は田んぼの朝仕事は中止して、ゆっくり布団の中に入っている。もう少ししたら畑に行ってキュウリを少し収穫してこよう。

起き上がって二階の廊下から外の景色を見る。オレンジ色の屋根を伝って雨が流れ落ちている。いつもならスズメやツバメが止まっているテレビのアンテナや電線に今日は鳥の姿がない。と思っていたら、スズメが二羽、空から湧いたように鳴きながら我が家のほうに飛んできた。

午前八時頃、土砂降りの雨になった。旧雄物川の河川の縁のニセアカシアの高木にカラスが一羽止まっている。

七月二四日

午前四時半。一階の居間に降りて窓のカーテンを開く。曇り空のどんよりとした雲の合い間をツバメが一羽飛んでいる。

午前五時。ストレッチをしながら朝刊をサッと読み、朝仕事に向かう。今日までに田んぼの畦の草刈を終えなければならぬ。JAの指導によるカメ虫対策だ。

軽トラックに草刈機を積んで、田んぼに向かう。農道を走って行くとスズメが数十羽とキジバトが一羽軽トラックに驚いて飛んで行った。草刈を終えてから畑

に向かい、キュウリ、ナス、ズッキーニ、トマト、青シソを収穫し家に帰った。

七月二五日

雨は昨夜からずっと降っていたのか、今朝も昨日と同じような曇り空だ。二階の窓から空を見ると隣家のテレビアンテナにスズメが二羽止まりチュンチュンと鳴いている。なにやら会話をしているようだ。もちろん俺には会話の内容が分かるはずもない。

スズメ達から二〇メートルほど離れたコンクリートの電柱の上にハシボソガラスが一羽止まり、南の方を向いている。

いつものように新聞を読み、目が覚めたところで畑に行きビニールハウスに植えたキュウリとナスとトマトを収穫してきた。

ここ三日程雨が続いたせいか、ビニールハウスの中の通路も柔らかくなってきたので、通路に板を敷いて歩けるようにした。

七月二六日

朝、農道わきのガードレールからコチドリと思われ
る鳥が一羽飛び立った。今日は田んぼのヒエ抜きをし
た。この時期のヒエは柔らかく刈りやすい。中干しと
いつて田植え後のある期間、田んぼに水を入れずに乾
かし、田んぼを固くしたせいか歩きやすい。

七月二七日

四時四〇分カラスの鳴き声で、目が覚める。二階の
窓からツバメが旋回しながら飛行しているのが見える。
フィリピンやインドネシアの方まで帰るための練習を
しているようにも見える。

朝の農道を走るとスズメと同じくらいの大きさのカ
ワラヒワが一五羽くらい、あちこちで飛び交っていた。
アオサギ一羽、コチドリ一羽、ハクセキレイ一羽を
見かける。

夕暮れ時、仕事で工場の建屋の高所に登った。二階
建ての工場の屋根と同じくらいの高さまで梯子を登り、
一息ついてあたりを見渡すと、隣の工場の屋根にハク
セキレイが五十羽位、屋根の上で動き回っていた。こ
こを畴としているのだろうか。

七月二八日

朝、チドリの仲間一羽とアオサギ二羽、カワラヒワ
十羽、スズメ数羽を農道で見かけた。

七月二九日

ツバメ二羽、コチドリ二羽、ヒヨドリの声。

七月三〇日

今朝は見渡す限り靄に覆われていたが、暫くして朝
の陽の光が差し込み隣家の屋根も明るく見える。電線
にツバメが数十羽きちんと並んで、ピチャクチャ鳴い
ている。

七月三一日

鳥の記録なし。

八月一日

鳥の記録なし。

トマトケチャップを作る。玉ネギドレッシングを作

る。

八月二日

四時五五分。カラスの鳴く声で目覚める。

五時三七分。トビとアオサギが農道にいた。スズメ数羽。

六時五〇分。ヒヨドリが数羽堤防の近くの畑のまわりを飛んでいる。近くにある看板に止まっているカラスが、その光景を見ている。

一週間ぶりに田んぼに行き、水を入れる。帰りに畑に寄り、ササギ（インゲン）、ナス、キュウリ、トマトを収穫する。

田沢湖高原のホテルに行く。高原の気温は二五℃。麓より四℃も低くて涼しい。ホテルの露天風呂に入り、デッキチェアにナガマリ（横になり）昼寝をする。ふと眼をあけたらキジバトが通過していった。

八月三日

四時一五分。ヤマガラの鳴き声で目を覚ます。

八月四日

四時二〇分。カワラヒワの鳴き声で目を覚ます。アオサギが鋭い声で鳴きながら飛んでゆく。

四時五〇分。朝食の支度を終えた母が電動カーに乗って畑に行く。

五時二〇分。ツバメがにぎやかにさえずり、家の電線に止まっている。

八月五日

四時二〇分。家の近くをアオサギが鳴きながら飛んでゆく。コロニー（営巣地）を作っている、秋田運河辺りから毎日飛んでくるのだろうか。

五時四〇分。向かいの家の杉の木にアオゲラが鳴きながら飛んできた。家の近くでアオゲラを見かけたのは二〇年も前のことだ。

八月六日

母と墓の掃除をする。

五時一〇分。アカゲラの鳴き声が近くで聞こえる。

五時三〇分。二つ目の墓に行く。ここでもアカゲラ

の鳴き声が聞こえる。ヒヨドリが二羽、寺の杉の木の間を縫って飛んで行く。

八月七日

今日はあまり鳥を見なかった。というより見えなかったというべきか。

四時五〇分。起床。新聞をサツと読み、作業着に着替え、畑に行く。今日はトラクターで畑を耕起した。作業時間は約二時間。朝食後、枝豆の収穫作業に行く。先月（七月）に法人化した、組織の作業だ。法人の構成員は六名。プラス構成員の家族や作業を依頼しているメンバーで構成されている。一六時に作業終了。

八月八日

今日もグループの共同作業で枝豆を収穫した。ガードレールにカラスが止まっていた。

八月九日

内浜田の知り合いの家に行く途中、田の近くの道路や電線に二〇〇羽位のスズメが群れをなしていた。

八月十日

秋田市雄物川花火大会。猛暑のせいでカラスも口をあけて時を過ごしている。今年生まれた幼鳥にも暑さは均等だ。

八月十一日

七時一〇分。昨夜の花火大会の残骸が目当てなのか、今朝はハシボソカラスが多くみられた。一〇〇羽以上だろう。短く刈られた堤防の緑色の斜面に点在するカラスの姿が鮮やかに見える。多くのカラスがここに居る理由の大半が「食」だと思えば、カラスも自分も似たような存在に思えて来る。「食」金のために、毎日この堤防を往復しているのだから。

夕暮れ時、家の近くの電柱にハシボソガラスが一羽止まっている。西の方角をじつと見ている。

八月一二日

今朝は虫の声で目が覚めた。虫の名前はサツパリ分らない。

電線に六羽ツバメが止まっている。少し離れた所には十数羽きれいに電線に並んでいる。

畑に書いて、耕耘機を軽トラから下ろそうとした時、頭上を白いサギが二〇羽程、南東に向かって静かに飛んで行った。雄和の下黒瀬の橋の近くの川岸で群れを見かけたことがあった。今日もそちらに飛んでゆくのかな。

八月一三日

五時三〇分。電柱に止まっているツバメが鳴いている。今朝は気温が下がって、だいぶ過ごしやすい。静かなお盆の朝だ。

昨夜、二男夫婦が帰省して、今朝は二人で畑に行ってくれたので、今日は畑に行かず、家で新聞を読む。

八月一四日

四時四〇分。今朝も虫の声で目が覚めた。秋がそこまでやってきているということか。

五時三〇分起床。新聞を読んでから畑に行く。今日の収穫はトマト、キュウリ、パプリカ、ナス、ズッキーニ。

二階の窓から見える電線に一羽ツバメが止まっていた。五秒ほど飛んだと思ったらまた電線に止まった。幼鳥が飛行の練習をしているのだろうか。

昨年亡くなった、魚屋さんの文字さんの初盆ということで、線香を上げに行った。

今日は作業小屋の引き戸の戸車を息子と二人で交換した。この引き戸はもう二〇年以上締め切っていて、戸車も錆びてボロボロになっていたのだが、明日ここでバーベキューを皆でやることになり、必要に迫られて、この引き戸を開けることになった。

八月一五日

雨の音で目が覚めた。昨夜からかなりの雨量になったのだろう。家の前の道路に水が溢れていた。

鳥の記録なし。

八月一六日

四時五〇分。キジバトが一羽鳴き続けている。暫くしてツバメやカラスの鳴き声も聞こえてきた。

午前中は枝豆の収穫作業。男性五名。女性二名で作

業する。

夕方、ツレと太平の温泉に行く。日が沈み、山あいの県道を走っているとカラスが七羽、みず色の空を飛んで峠に帰るところだった。一緒に飛んでいる七羽の姿が一瞬、大くま座の柄杓の形をした北斗七星に似ていておかしかった。

八月一七日

作業小屋の軒先にできていた足長バチの巣を撤去した。ホームセンターで買ったエアゾール式の殺虫剤を噴射したところ二〇匹くらい巢に集まっていたハチが一瞬で動けなくなり、コンクリートの地面に落下した。殺虫剤の効果にびっくりした。

鳥の記録なし。

八月一八日

風の強い日だ。南東の風。玄関のプランターに植えたコリウスがひっくり返っていた。

七時四〇分。低く垂れこめた雲が西のほうからゆっくり動いている。二棟あるビニールハウスのビニール

を張っていない屋根にハシブトガラスが風を避けるようにうづくまつて止まっている。すでに朝食にありつけたのか、静かに景色を見ている。スズメが十数羽、畑と転作大豆の間を行ったり来たりしている。

今日の収穫はパプリカと青シソ、キュウリ、ピーマン、トマトだ。野菜は無言。カラスも今日は無言。

六十株程植えたプチベールにモンシロチョウが止まっている。

風の中を軽トラに乗って田を見回る。

タシギ一羽。アオサギ五羽。ダイサギ二羽。ハクセキレイ三羽。

家に帰ると、プランターがまたひっくり返っていた。

横山 仁

事象解析

その事象・情報で だれが利益を得るか？
歴史上、その事象の時向があつたか？》

最近はまだみていないが、情報を集めるページに「★阿修羅」がある。(以下、引用はコピペした。著者の打ち間違いらしきものも、そのままにした。)

《すべての虚構を暴き、真実に到達しようとしている

る
作業員もいる玉石混濁掲示板。

例：作業員募集要項 作業員と消し屋。

情報解析

その情報が 誰によって 流されているか？
なぜ今 流されているか？

この言葉を正確に引用するためにみたとこ、8月

19日の「阿修羅」に、山本太郎氏が、「参議院特別委、『米
国からの指示書』と言われるくらい安保法制と内容が
重なる『第3次アーミテージ・レポート』について、
追求した」とあつた。「戦争法案はアメリカのリクエ
スト通り。こういうの完コピっていうんですよ。誰の
国なんだ、この国は！』

そして、「すぎすぎる。そして、すばらしい!! まあ
犬HKは絶対やらないでしょう。あのゴミHKがやる
わけない。報ステを見たがやってなかった。」という
コメントや、「山本議員の質疑の全文文字起こし」も
投稿されている。

もともとネットでは、ジャパン・ハンドラーのマイ
ケル・グリーンが「日本の総理は、バカにしかやらせ
ない」といったようなことは、よく知られていた。

*

元軍事ジャーナリスト黒田小百合氏のツイッターも、おもしろい。

《(8月4日)
安本法制によって一番儲かる企業・団体・個人は誰か？日本のメディアアこれを報道すべきだよ。米国の新聞には『今後10年間で日本は、米国から約30兆円の武器を購入…』と記載されてるね。それを取り扱う最多の日本企業は安倍ちゃんの大好きな三菱グループだよ。

(7月16日のツイッターでは、「独国では軍事関連新法が提出されると必ず関係企業が報道される。目標もない仮想敵国を妄想させ軍事関連企業に莫大な税金を投入する政権を操る企業団を前面に報道すべきだよ。」とある。)

(8月1日)

中国には報道の自由がない、だから国内の報道を鵜呑みにして信じてしまう人は皆無ね。だが日本人は、日本の報道は自由があると信じているので、嘘であるうと疑わずに全て信じてしまう。(pさん)

(8月1日)

櫻井よしこちゃんが「731部隊の存在まで中国の捏造」と幼稚なネットウヨと同じデマ流しているよ。京都大学の資料館を見てくださいなよ！》

8月15日には、ハルビンで「中国侵略日本軍七三一部隊罪証展示館が全面開館」という。

ほかにも、天皇の犯罪など、興味深いことが語られている。

*

毎日見るのは、飯山一郎氏のホームページ。放射能のことが、詳しく載っている。

《(8月19日)

いま、日本の最大の難問は、フクイチの原発事故だ。この難問以外は、すべて些細な問題だ。

記録された動画集を見れば一目瞭然だが…、地下に溶け落ちた百トン以上の核燃料が地下水や海水と接触して大量の湯気(放射性水蒸気)を噴出させている現象は、日々悪化の一途である。

この殺人水蒸気(濃霧)は、日本列島の全域を襲い、中国大陸、極東ロシアどころか北米大陸をも襲っている。

(7月1日の記事で補足すると、「さらに深刻な問題は、中性子線を出す核種(プルトニウム240など)が、沸騰して蒸気化し、超微粒子(蒸気の粒)となって大気中に大量に放出されていることです。3人の核物理学者と何時間にも渡って議論を交わして、私の推論の信憑性は確認出来ています。)」

(8月9日)

原子力発電所するのは、超高温の湯沸し器でつくった

蒸気でタービンを回すだけの原始的な装置だ。

で、原発の別名は海水あつため機。

核燃料するのは、海水をバンバン温めるほどの熱を出し続けるのだな、これが。

現在、フクイチでは、2千本近い核燃料が周囲に散らばっていて、ほぼムキ出し。これが「崩壊熱」を出し続ける。

あと…、

原子炉から融け落ちた200トン近い核燃料(デブリ)が、フクイチの地下で超高温の臨界熱を出して煮えたぎっている。

さらに…、デブリは熱い湯気や水蒸気を噴き上げている。

これだもん、暑いワケだよな！

それから、核の夏という現象も加わる。

以上が、東北・北関東が猛暑であることの原因だ。

このことは、気象庁も学者も評論家も、誰も言わない「飯山一郎気象学説」。だけど当たっているはずだぜ！ [www](http://www.w)》

さらに、イスラム国については、「◎なお、「イスラム国」は「イスラL国」と表記。」というが、金の出所からである。「みんなが知るべき情報／今日の物語」というホームページには、「つまりISISは、米・英・イスラエル・国際金融資本（米金融ユダヤ）が、中東に居座って戦争利権を確保するために作った自作自演の物語であり、ツールである。アルカイダもまた米国が作ったものだ。米欧の潤沢な資金で、テロは育てられているのだ。」ともあった。

*

広告代理店の広報ともいわれる日本のメディアが、正確に伝えているのは、日付だけども。
原発の報道でも、ドイツやロシアなどの海外のジャーナリズムは、事実を伝えていて、動画は、youtubeでみる事ができる。ボラソチエアの日本語字幕もついている。

*

8月20日の「ヤフーニュース」に、毎日新聞からとして次の記事があった。何の方策もなく、たれ流しするした能がないくせに、恥ずかしくないのかね。というか、国内向けのプロパガンダかもね。自国民の安全を第一にかんがえることがない政府のやりそうなことだ。

それにしても、輸入を全面禁止しているのは韓国だけじゃないのに、なぜ韓国なんだろう。儲けるやつらが、いんじやね、という声が…。

「政府は20日、韓国が東京電力福島第1原発の事故を理由に福島など8県の水産物輸入を全面禁止しているのは不当として、世界貿易機関（WTO）に提訴した。原発事故を巡る輸入規制で、日本政府が他国を提訴するのは初めて。」

*

8月21日の「ヤフーニュース」で「ネットで話題の無料動画」とあり、なかに「谷川俊太郎」という文

字があったので、見てみた。8月16日に放映された「情熱大陸」という番組だった。「戦後70年の夏。日本が世界に誇る現代詩人は今、何を感じどんな言葉を紡いでいるのか——。」谷川の新作は、『せんそうしな』という絵本(2015.7 講談社)。さすが、現代(現在) 詩人だな。なお、番組を検索していたら、谷川のホームページをみつけた。

*

you tube に、「日本の真相」というのがあった。語っているのは、鬼塚英昭氏。9回シリーズで、タイトルは「すべての戦争は八百長である」「中曾根、正力工作員の原発」など。著書もだいたいぶ出しているが、残念ながら、秋田県立図書館にはなかった。

また、you tube では、『日本はなぜ、「基地」と「原発」を止められないか』(2014.10 集英社 インターナショナル)の著者矢部宏治氏のインタビューや対談などを見ることが出来る。

あとがき

◆昔のように冊子を出そうかとの声が上がってから約2年、漸く漕ぎ着けた。全作業を担当したJには感謝感謝。22年ぶりに目次に名を連ねるが、最年少のTが明年還暦とあれば更にその時間を感じてしまう。(B)

◆歩く、遠くまで歩く、それは旅に似ている。歩くことが日々の習いになってくると、日々を送ることは旅に似てくる。歩いているときに出会った事柄や思いを書いていければいいと思っている。(K)

◆日々の暮らしの中で見たこと、感じたこと実施したことなどを書いてゆこうと思う。

そうした気持ちにさせてくれた「海市」のメンバーに感謝したい。(T)

◆「海市」とは、蜃気楼の意味という。「もろもろの事象は過ぎ去るものである。怠ることなく修行を完成なさい」(中村元訳)とは、ブッダの最後のことば。(J)

「海市」 第1号

2015年9月1日発行

発行 書肆えん

秋田市新屋松美町5-6 横山方